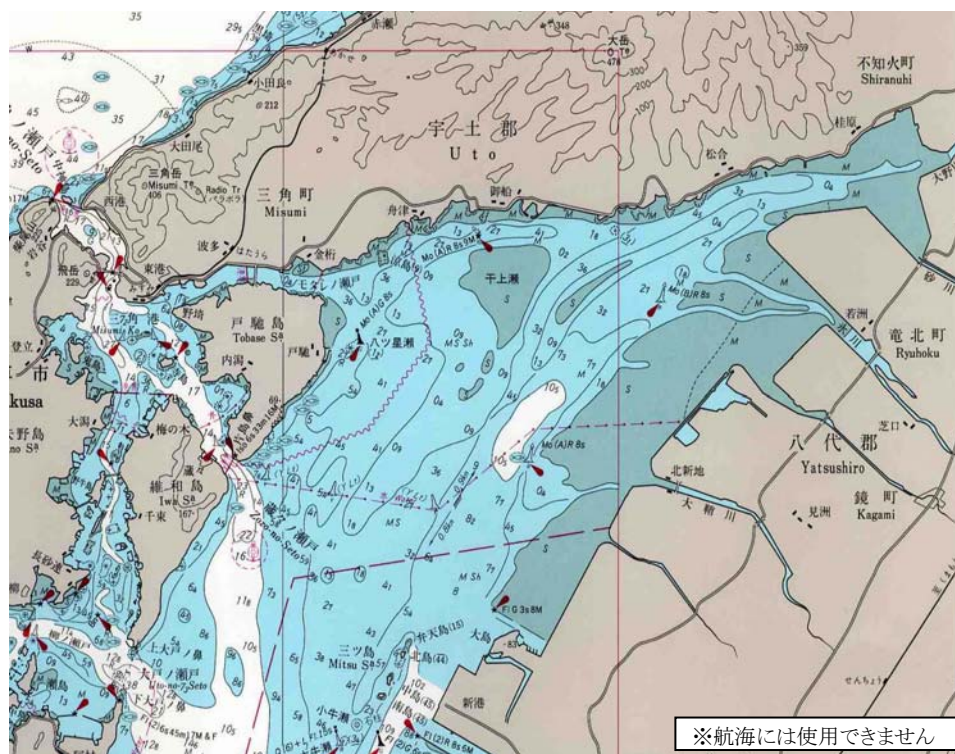


第2章 調査結果

2.1 海底地形

八代海北部海域の海底地形は、図 2.1 の海図によると概ね水深 4~+3m の範囲で、その約 5 割を沿岸と海域中央に形成された干潟(0m より浅い区域)が占める極めて浅い海域である。特に海域中央付近より湾奥の干潟域は、湾奥部の大野川河口から約 3km、東部沿岸の干拓地(八代市)から約 2km で海域中央に向けてせり出し、大野川をはじめ氷川、鏡川、大鞘川等の流入がもたらす滞りが形成されている。



出典) 海図 W169 「島原湾」

図 2.1 八代海北部の海底地形

航空写真と深浅測量結果を重ねた八代海湾奥の海底地形図(図 2.2)からは、滞りがそれぞれの河口に向けて帯状に延びる様子や色調の違いによる水深の変化が、大野川河口や氷川河口の干潟域を中心にみてとれる。

また、海底地形を 3 次元的に捉えた鳥瞰図(図 2.3)からは、湾央部から湾奥部に向けて帯状に延びる水域をみることができるが、不知火干拓前面付近では両岸が迫り、細く急に浅くなっている。

こうした狭小な水路(滞り)を含み複雑に入り込んだ地形下において、環境整備船「海輝」の航行の可能性については、安全性を十分に考慮し検討を行う必要がある。また、八代海北部海域に流入し、漂流するゴミは、こうした海底地形下において複雑な流れを示すものと推測される。

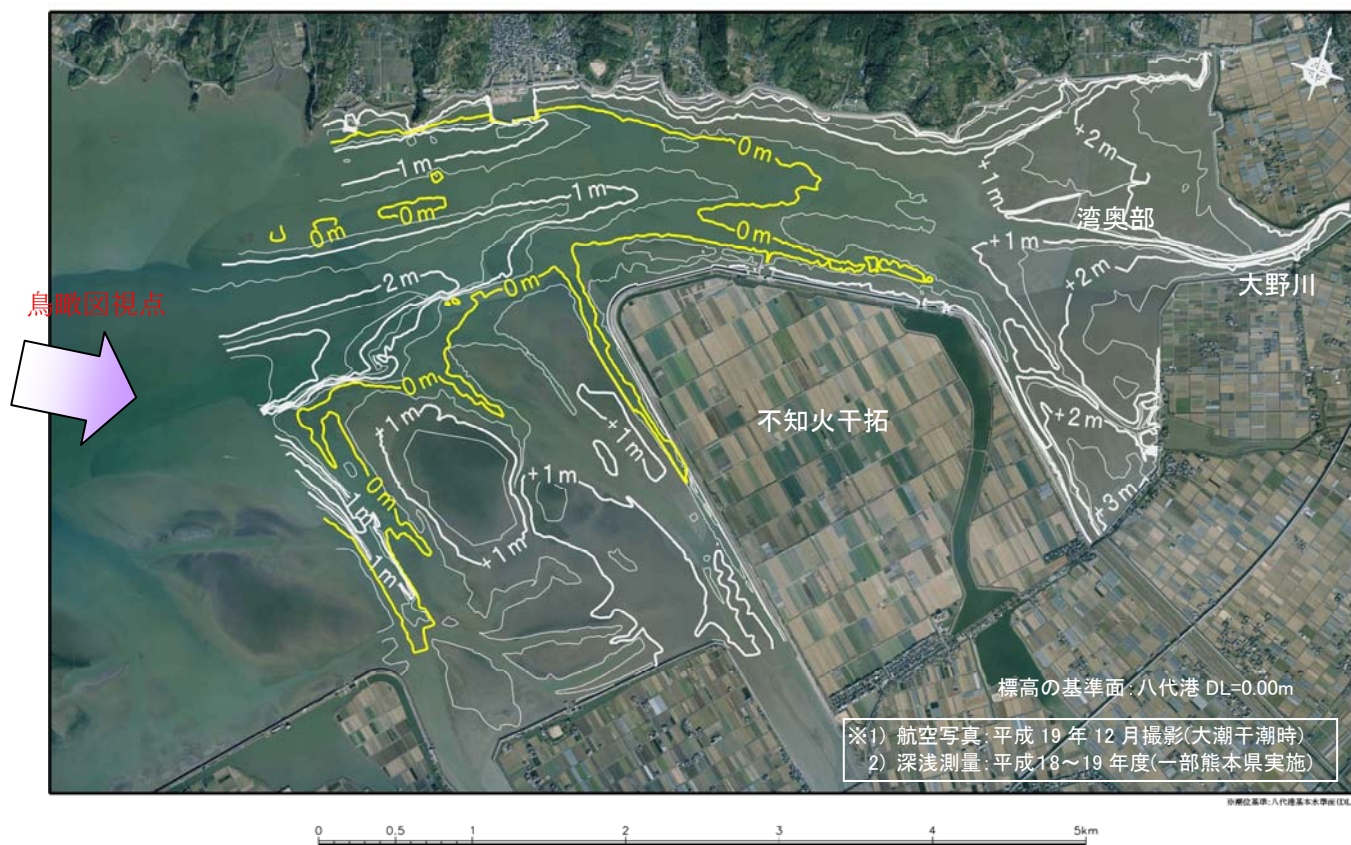
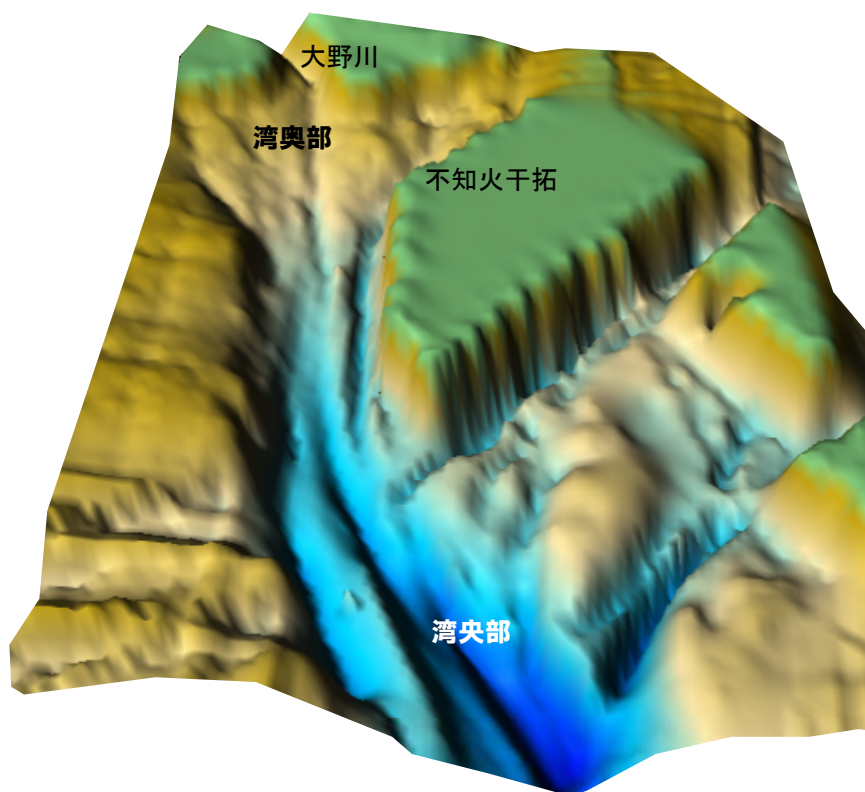


図 2.2 航空写真と深浅測量結果を重ねた湾奥の海底地形



—鳥瞰図—

湾央部から湾奥部をみた海底地形のイメージを表現したもので、水平距離に対して高さを拡大している。
おおむね、黄土色が干潟、青が海域、緑が陸域(干拓地等)を表す。

図 2.3 湾奥の海底地形鳥瞰図